

## 平成 30 年度 第 2 回兵庫県公立大学法人評価委員会 議事録

### 1 日時及び場所

- (1) 日時 平成 30 年 7 月 27 日 (金) 14:00～15:00
- (2) 場所 兵庫県公館第 2 会議室

### 2 出席委員

西門委員、西川委員、牧村委員

### 3 出席職員

(兵庫県)

小橋管理局長、法田大学課長、中津大学課副課長

### 4 内 容

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 出席者紹介
- (4) 議事  
平成 29 年度の取組に関する評価案について
- (5) 閉会

### 5 意見交換の概要 (●：委員、○：法人又は事務局)

- 最近では諸外国、特に新興国が伸長してきている中で、企業にとっては次世代リーダーの育成が重視されている。英語力、ビッグデータは目玉であるが、あくまでツールであり、それらを学ぶこと自体が目的であってはならない。

例えば、健康医療の分野において、病院の実臨床データを用いたビッグデータの解析は、患者の病態変化を予測し、患者に最適な医療を提供することを目的としている。何のためにどうするのかという目的をはっきりさせなければならない。

英語についても同様である。語るべきものが何もないのに英語を使っても意味がない。企業においてはビジネスで交渉できる英語力が必要とされている。グローバル化が急速に進む中、英語力は必須であるが、何のために英語を学ぶのが重要である。

→ ○ 英語に関していえば、TOEIC の点数を上げることが目的ではなく、英語コミュニケーション能力の向上が重要である。

- 全学で英語の平均点を上げるのではなく、英語を必要とする学部で点数を上げればいいのか。英語をツールとして海外と戦うにはかなりのレベルでなければならないので、英語力が必要となる学部では高い目標を設定して取り組むことが必要である。

広報に関しては、色々なところで取り上げられて地道な努力をされているが、何を指してどういう大学にするのかという戦略、マーケティングが重要である。大学として組織だった方針が必要である。

- ○ 広報もツールであってそれ自体が目的であってはならない。戦略という視点が欠けているので、大学として目指すところをはっきりさせて広報活動に取り組む必要がある。
- TOEICの点数だけ伸ばしても、具体的に英語が使えるようにならない。企業へのインターンシップ等、チャレンジも必要である。
- 最初は工学、経済・経営、看護というどの枝から入っても、次世代リーダーの育成という幹だけは共通にするべきである。次期中期目標においても、次世代リーダーの育成をベースにして考えると整理がしやすいのではないか。